

令和4年（2022年）12月8日

教職大学院授業における大雨防災ワークショップの実施 ～「経験したことのない大雨 その時どうする？」～

【本件のポイント】

- 教職大学院の授業「学校の安全と防災教育」の一環で連携協定を結ぶ山形地方気象台の協力のもと「大雨防災ワークショップ」を実施する。
- 本授業は現職教員院生および教員志望の院生が受講しており、近年、多発傾向にある風水害に対して、大雨時の防災気象情報の理解や安全確保のための判断を模擬的に体験することを目的に行われる。
- 現職教員院生および教員志望院生が本授業（ワークショップ）を受講することで、学校の周辺地域で大雨等、風水害が懸念される際に学校安全の視点を持ち、対応・行動できる能力の育成につなげようとするもの。



【概要】

近年、日本全国で出水期における風水害・土砂災害の被害が相次ぐなか、山形県内でも毎年のように豪雨が発生し、本年8月には置賜地域を中心に水害・土砂災害による被害を生じました。

山形大学では、教職大学院の授業において「学校の安全と防災教育」を開講しており、現職教員院生や教員志望院生の学校安全、防災教育に関する資質・能力の育成を図っています。この度、授業の一環で、連携協定を結んでいる山形地方気象台の協力のもと「大雨防災ワークショップ」に取り組みます。

「大雨防災ワークショップ」は、気象庁が提供するコンテンツで、大雨や台風などで気象災害が懸念される際に発表される防災気象情報の利用や災害予見時の対応、行動について参加者の一人ひとりが自分で考えることで、深い理解を得ることができるコミュニケーションイベントです。

【開催要項】

日 時 ／ 12月15日（木） 13:00～16:10

会 場 ／ 山形大学小白川キャンパス地域教育文化学部2号館 自然科学多目的第2実験室

お問い合わせ

学術研究院講師 熊谷誠（社会安全システム科学・地理学）

／地域教育文化学部主担当／教職大学院教育実践研究科副担当

TEL 023-628-4392 メール kum@e.yamagata-u.ac.jp



「大雨防災ワークショップ」の実施について
～「経験したことのない大雨 その時どうする？」～

山形地方気象台では、山形大学地域教育文化学部と連携して、教職大学院の授業「学校の安全と防災教育」の中で「大雨防災ワークショップ『経験したことのない大雨 その時どうする？』」を実施します。

山形地方気象台では、気象災害を防止・軽減するため警報などの防災気象情報を発表し、注意や警戒を呼びかけていますが、住民一人ひとりが災害から身を守るためには、これらの防災気象情報を含めた防災知識を理解し、地域ぐるみで防災意識を高めることが必要です。

このため、気象台では、山形大学と連携して、現職教員院生及び教員志望院生が在籍する教職大学院の授業「学校の安全と防災教育」の中で、受講者が自分で考えて深い理解を得ることができるコミュニケーションイベントである「大雨防災ワークショップ」を実施します。

※「大雨防災ワークショップ『経験したことのない大雨 その時どうする？』」の概要は、こちらの URL をご覧下さい。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jma-ws/index.html>

記

1 日 時

・令和4年12月15日（木）13時00分から16時10分

※参加人数：20名程度

2 場 所

山形大学小白川キャンパス地域教育文化学部2号館

自然科学多目的第2実験室

なお、研修会当日の取材を希望する場合は、山形大学地域教育文化学部熊谷講師（TEL：023-628-4392）に問合せください。

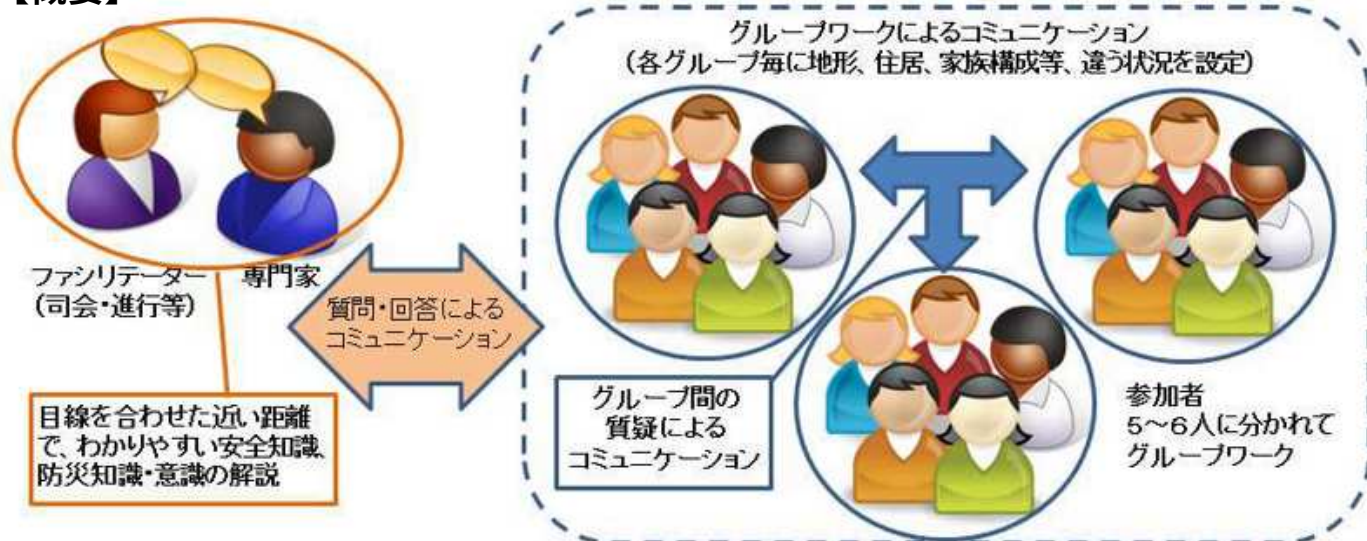
問合せ先：山形地方気象台 次長 栗田

電話 023-622-0632 Email k_kurita@met.kishou.go.jp

大雨防災ワークショップ

「経験したことのない大雨 その時どうする？」

【概要】



解説者と参加者が近い距離で、質問を交えながら進めるわかり易い解説



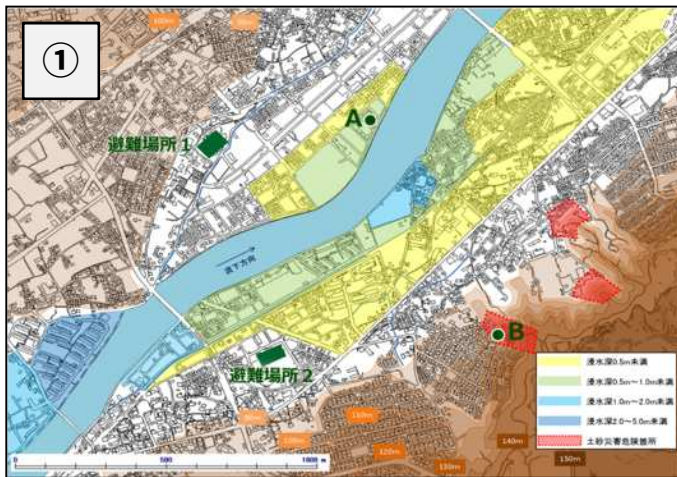
少人数のグループに分かれ、様々な意見をまとめて対応を考えるグループワーク

住民が防災について考えるための「気づき」「きっかけ」

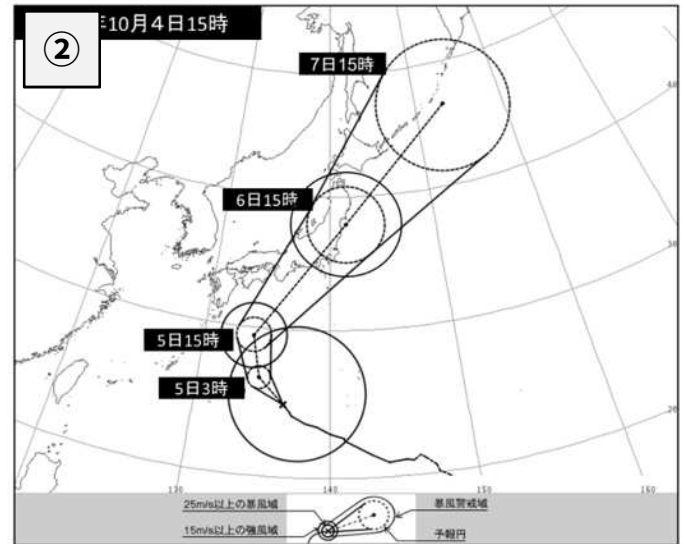
山形地方気象台では、これまで気象台のホームページや講演会等を通じて、住民等における防災・安全知識の普及啓発に取り組んできました。更に防災意識を高め、実際の災害時における住民自らの安全行動につなげていただくため、日頃からの備えや適時適切な防災気象情報や避難情報の入手とその情報を活用した安全行動を能動的に学習する『大雨防災ワークショップ「経験したことのない大雨 その時どうする？」』を作成し、普及拡大に取り組んでいます。ワークショップの参加者からは情報の活用方法が理解できたなど好評をいただいています。

大雨防災ワークショップは小学校高学年以上を対象としており、学校や町内会でも開催することができますので、興味のある方は気象台までお問合せください。また、気象台ホームページでも概要を紹介しておりますので、そちらもご覧ください。

気象庁ワークショップ（グループワーク） シナリオ



①参加者はグループに分かれ、グループ毎に架空の居住地（浸水or土砂崩れの恐れ）、住まい（木造2階建て一軒屋or3階建て鉄骨マンション3階）、家族構成（歩行困難者あり、車あり等）を設定。



②大型で強い台風が接近していることを、夕方のニュース内の気象コーナーで視聴するところからスタートします。



10月4日（金） 18:00
～10月5日（土） 13:00

10月5日（土） 5時00分

大雨注意報

洪水注意報

※ 避難場所はまだ開設されていません



10月5日（土） 13時30分

大雨警報

洪水警報



10月5日（土） 13:00
～10月6日（日） 13:00

10月5日（土） 13時30分

大雨警報

洪水警報

10月5日（土） 18時30分

土砂災害警戒情報

10月6日（日） 4時10分

大雨特別警報

⑥ 身を守るための知識を持つ



テレビ



ラジオ



携帯電話



広報車

防災無線



WEB

⑥参加者は、刻々と気象状況が変化中（③～⑤）、気象台が発表した警報等、市町村からメールなどで発信される情報、各テレビ局が放送する気象コーナー、テロップ等をトリガにして、身を守るための行動を起こすタイミングとその理由を話し合います。